

行政視察等報告書

平成27年6月3日

米子市議会議長様

会派名 希望
代表者氏名 国頭靖
提出者氏名 土光均



下記のとおり報告します。

記

項目	<input checked="" type="checkbox"/> 現地調査 <input type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者 土光均
期日	平成27年5月30日から 平成 27年5月31日まで
[概要] (年月日・場所・内容) 平成27年5月30日・31日に福島県においての「被災地スタディツアー」に参加。30日は「福島原発事故の現状」「放射能市民測定室たらちねの説明」「原発事故の健康被害」についての研修。31日は、バスにて、楢葉町、富岡町を現地視察。また放射能市民測定室たらちねを訪れ、現場での状況の説明を受けた。
[所感] 別紙参照
経費	旅費総額 87,250円

福島（いわき市、楡葉町、富岡町） 視察報告書

日時：2015年5月30日(土)～31日(日)

場所：福島県いわき市、楡葉町、富岡町

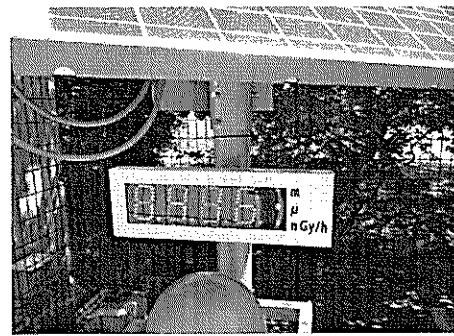
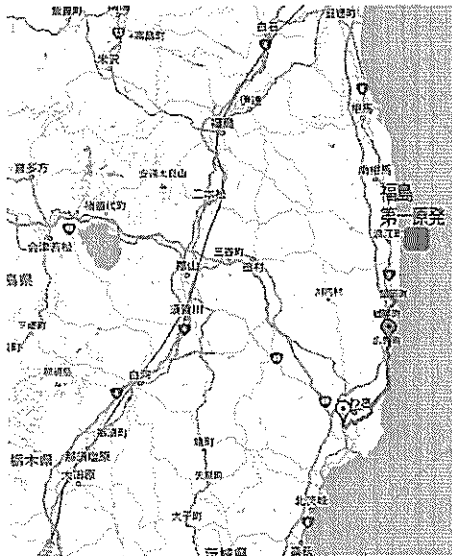
報告者：土光均（会派、希望）

5月30日（土）いわき市「ゆったり館」にて、以下の研修

- 1、福島原発事故の現状
汚染水・被曝労働・廃炉への課題、「ひだんれん」設立の動き
(佐藤和良：いわき市議会議員)
- 2、食品測定、WBC、甲状腺検査の現状とβ線測定がめざすもの
(鈴木薫：いわき放射能市民測定室たらちね事務局長)
- 3、「誰も書けなかった福島原発事故の健康被害」を語る
(明石 昇二郎：ルポルタージュ研究所所長)

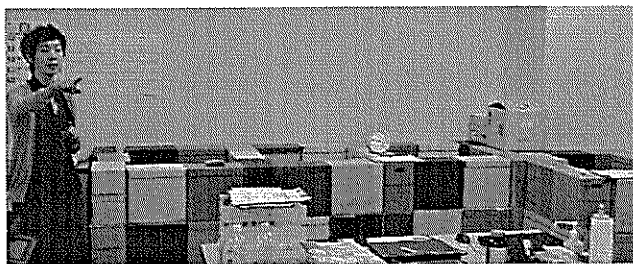
5月31日（土）

・楡葉町～富岡町をバスにて視察（赤い線がルート）



楡葉町内のモニタリング装置
放射線量 0.416 μ Sv/h
(平常値の10倍程度)

・いわき放射能市民測定室たらちね を訪問



γ線測定装置
(装置そのものは、遮蔽
に囲まれて見えない)

左は、「たらちね」事
務局長鈴木薫さん

<所管>

今回訪れたところは、福島第一原発から15キロ付近まで。

バスの中でも、放射は通常の10～20倍程度になるところがある。

放射線は、「見えない、におわない」が、何かひしひしとしたものを感じる。

事故後4年（今でも収束はしていない）たった今でも、「見えない」ものつきあいながら生活を考えるしかない。

そのために、とにかく測定（見える化）していく必要があるとのこと。

このような現実を踏まえながら、今後の原発のあり方、原発とのつきあい方を私たちが考えていく必要があることを再認識した。